

みんなの図書館

町立図書館 ☎0234-43-3039
分館(狩川公民館内) ☎0234-56-3308



一般向 新刊案内



『よその島』 (井上 荒野)
離島へと移住を決めた芳朗と落子、そして夫妻の友人・野呂。人生の終盤で実現した共同生活の滑り出しは順調に見えるが、3人はそれぞれ不穏な秘密を抱えていて…。
(中央公論新社)

- ・『流人道中記 上・下』(浅田 次郎)
- ・『ひこばえ 上・下』(重松 清)
- ・『発注いただきました!』(朝井 リョウ)
- ・『夜明けのM』(林 真理子)
- ・『夜がどれほど暗くても』(中山 七里)
- ・『十字架のカルテ THE PSYCHIATRIST』(知念 実希人)
- ・『クスノキの番人』(東野 圭吾)
- ④『言の葉は、残りて』(佐藤 隼)
- ④『眠りの神』(犬塚 理人)
- ④『ほどなく、お別れです それぞれの灯火』(長月 天音)

☆図書館子どもまつり 4/25(土)~5/3(日・祝)
ぜひ遊びにきてください!

児童向 新刊案内



『春がきたよ、ムーミントロール』
(トーベ・ヤンソン、ラルス・ヤンソン)
／原作・絵、当麻 ゆか／訳
冬眠中、目を覚ましてしまったムーミントロールは、外の雪の上に残っていた、ちびのミイの足あとを追って、いつもとは違う冬のムーミン谷へ…。春が訪れるしあわせと、親友との再会の喜びを描いた絵本。
(徳間書店)

今月のおすすめ本

子どもと関わるすべての人へ
『出会い、触れ合い、支え合い 朝のさわやか歳時記～登園時での子どもの素顔から～』
(齋藤 雅志／庄内町余目出身)
校長退職後に園長を務めた著者が、園児との交流を通じて感じた思いなどを綴ったエッセイ集。愛情深く子どもたちと接し、見守っている様子が感じられ、改めて子どもとの関りを大切にしたいと思わせてくれる1冊です。(弘報印刷)

News 図書館からのお知らせ

【こどもの読書週間】特別貸出 [4/11(土)~5/10(日)]
ひとり10冊まで貸し出します。

が多いこともおらほのことばの特徴だと書いたことがあるが、実はおらほのことばには本来の言い方より音数が多くなっているものが多いことがある。
婆ちやがつぶやいたことばで言えば、ガンバンはお気づきの通り靴のことだから、本来の3音が4音に増えている。
音の増え方にはいくつかの型があるが、ガンバンのように語の途中にンが挿入されるものとしてはナンベ(鍋)、キンナ



おらほのことば
がんばん
婆ちやが登校する子どもたちの列を見ながらつぶやく。
「おらだ(私たち)ちっちなどき(小さいとき)皮ガンバン(ランドセル)しょてんなは(背負っているのは)だんなしよ(旦那衆)の子ばかりだったものだがー」
今はどの子もーと言うことだろう。
婆ちやの述懐どおり、昭和初期はズック製の肩掛けガンバンが主流で、中には教科書を風呂敷に包んで登校する子もいたものである。
前に濁音が多いことと共に省音ー音を省いて語を短くするー

文・絵 樋渡 浩さん